

dwango

第11期 中間報告書

2006.10.1-2007.3.31

11

アソビを結ぶ。ヨロコビ。

dwango



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第11期中間期（2006年10月から2007年3月まで）における業績の概況及び
通期の見通しについてご報告いたします。

代表取締役社長 小林 宏

当中間期におきましては、モバイルコンテンツ事業の売上が当初計画比で6億円下回り、売上高は110億9百万円（期首予想比、5億91百万円減）となりました。費用面では、外注費約4億円、製造支払手数料約3億円、広告宣伝費約4億円を削減したことにより、営業利益は1億33百万円（同、8億33百万円増）、経常利益は1億15百万円（同、8億15百万円増）となりました。

しかしながら、特別損失として投資有価証券評価損やソフトウェア資産の減損損失をあわせて15億87百万円計上したことにより、16億53百万円の間接純損失（同、8億53百万円減）となりました。

また、この上期までの業績と下期の見通しを踏まえ、本年5月15日に通期業績予想の修正を発表しております。

通期の売上高は従来予想より30億円減額し、220億円を見込んでおります。これは主に、モバイルコンテンツ事業の上期の現状と下期の広告宣伝費削減による影響、また広告収入によるビジネスモデル構築の手法としてdwango.jpポータルを前面に推し進めていく計画を変更し、後にご説明する「ニコニコ動画」を中心とした戦略に置き換えたことによる遅延を考慮したものです。費用は主にモバイルコンテンツ事業における圧縮に努めますが、営業損失は7億円となる見通しです。特別損益では、投資有価証券売却益と投資有価証券評価損及びその他特別損失の差し引きで10億20百万円のマイナスとなり、当期純損失が19億円となる見通しです。

このように、当期は当社にとって大変厳しい状況ではありますが、一方で「ニコニコ動画」という新規サービスが急速な立ち上がりを見せております。

「ニコニコ動画」は2007年3月より当社と当社子会社のニワンゴが開始したPC向けのサービスです。詳細は5ページにてご紹介しますが、動画投稿サービスである「SMILEVIDEO」(スマイルビデオ)とコメントを投稿する「ニコニコ動画」をセットとして展開しており、他に類をない“動画の画面上にコメントを流す”というサービスが受け、驚異的なペースで会員数を伸ばしております。現状ではまだ収益モデルはスタートしておりませんが、本年6月以降の様々な手段による収益化に向けて準備しているところです。

このサービスにおける会員数の増加とそれに伴う様々な収益手段を構築することが、喫緊の課題であると同時に

当社グループのさらなる飛躍につながるものと考えております。

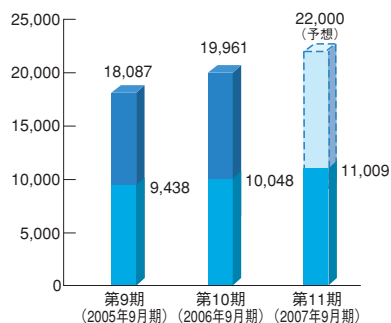
そのため、急増する会員数への対応と収益化につながる環境構築に向けて、現在開発スタッフの総力を挙げて急ピッチでサーバの増強や回線の確保、新機能の開発に取り組んでおります。当面はサーバ機器やソフトウェアなどの初期投資と回線費用などのランニング費用が発生いたしますが、これをやり抜くことが今後の当社の行く末を左右するものとして全力で取り組んでまいります。

当社グループは、今後この「ニコニコ動画」を中心に様々なエンタテインメント系サービスを膨らませていくことで、中期経営計画の目標として掲げた総合エンタテインメントポータル化を目指してまいります。

株主の皆様には何卒ご理解のうえご支援賜りますようお願い申し上げます。

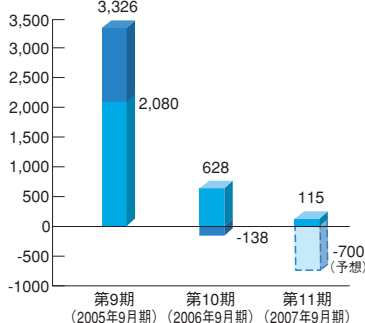
● 連結売上高

(単位:百万円) ■ 中間 ■ 通期



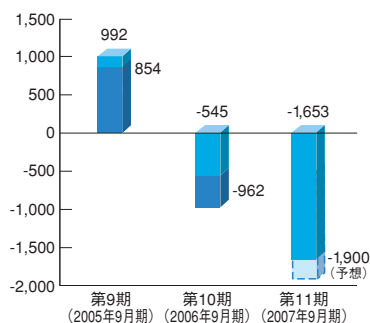
● 連結経常利益

(単位:百万円) ■ 中間 ■ 通期



● 連結当期(中間)純利益

(単位:百万円) ■ 中間 ■ 通期



セグメント別業績概況(連結)

モバイルコンテンツ事業

モバイルコンテンツ事業におきましては、携帯端末の高性能化・高速データ通信の実現などに伴い着うた[®]、着うたフル[®]以外にも新たに動画、電子書籍などのコンテンツが注目されてきております。

当社では市場ニーズの変化に合わせ、引き続き着うた[®]、着うたフル[®]サイトにおいてはラインナップの充実化を図るとともに、需要が高まってきている電子書籍についても昨年11月に携帯電子書籍サイトである「魔法の図書館plus」を、株式会社魔法のいらんどとの共同サービスで開始するなど多種多様なユーザーニーズに対応できるようなサイト展開を行ってまいりました。

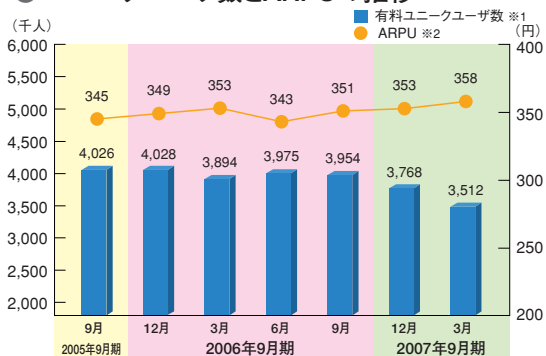
新たなジャンルについても随時取り組んでおり、アプリのダウンロードは無料としアイテム課金などで収益を上げるオンラインゲームをメインコンテンツとしたサイト「携帯ゲームオンラ

イン」を本年2月に、またNTTドコモの新サービスである「きせかえツール[®]」に対応した専門サイト「きせかえドワンゴ」を本年3月に開始するなどユーザーが求める全てのジャンルに対応できるようにサービスを拡充してまいりました。

これらの取り組みにより、着うたフル[®]専門サイトである「dwango.jp(フル)」は好調に会員数を伸ばし、各新サイトにおいても順調にユーザーを獲得できましたが、当社主力サイトである「dwango.jp(メロ)」が着うた[®]へのユーザーニーズの移行に伴い大幅に減少したことにより当中間連結会計期間の有料ユニークユーザー数は351万2千人(前年同期比38万2千人減)、ARPUは358円(同5円増)となりました。

この結果、モバイルコンテンツ事業の売上高は7億62百万円(前年同期比7.3%減)、営業利益は10億30百万円(前年同期比31.7%減)となりました。

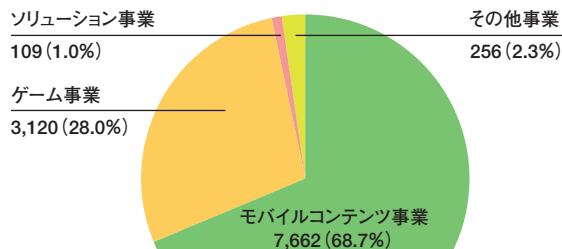
● ユニークユーザー数とARPUの推移



※1 有料ユニークユーザー数とは、ユーザーIDに基づきカウントする有料ユーザー数。延べ会員数ではなく、同一ユーザーが複数サイトへ加入している場合にも1人としてカウント。

※2 ARPU (Average Revenue Per User) とは、ユーザー1人当たりの月間売上高のこと。同一ユーザーの複数サイトへの加入状況を把握することで算出が可能。顧客単価と同義。

● セグメント別売上高 (単位:百万円)



ゲーム事業

ゲーム事業におきましては、当中間連結会計期間において当社グループ合計で13タイトル約80万本を発売いたしました。その他に株式会社チュンソフトが株式会社ポケモンと共同開発いたしましたニンテンドーDS用ゲームソフト「ポケモン不思議のダンジョン 青の救助隊」とゲームボーイアドバンス用ゲームソフト「ポケモン不思議のダンジョン 赤の救助隊」が引き続き海外で人気を博し売上に寄与しております。

また、昨年、当社と株式会社ゲームズアリーナ、株式会社チュンソフトにより設立いたしました有限責任事業組合(LLP)から本年1月にサービスを開始したネットワークゲーム「アミーゴ・アミーガ」につきましては、テレビCMや各雑誌媒体での

プロモーションなどを随時行っておりますが、現在はまだ集客の段階であり、当中間連結会計期間におきましては収益へ大きな貢献をする段階には至っておりません。

なお、当中間連結会計期間より当社グループの事業内容を見直した結果、従来ソリューション事業に含めておりましたネットワークゲーム・パッケージゲームの受託部門をゲーム事業に含めることにいたしました。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は31億20百万円(前年同期比115.9%増)、営業利益は4億88百万円(前年同期比274.7%増)となりました。

ソリューション事業

ソリューション事業におきましては、主に音源制作の受託業務を行ってまいりましたが、先行して発生した初期設備費用、制作期間の延長により発生した人件費の増加などにより、売上

高で1億9百万円(前年同期比74.3%増)、営業損失で8百万円(前年同期は22百万円の利益)となりました。

その他事業

その他事業におきましてはアニメーション番組への出資による利益分配金、株式会社スカイスクレイパーによる広告売上、株式会社チュンソフトが発行いたしましたゲームソフト攻略本等がそれぞれ売上に貢献しております。しかしながら、株式会社ニワンゴとの共同事業による無料メールポータルサービス「ニワンゴ」や、昨年10月に一般サイトでサービスを開始いたしました

ポータルサイト「dwango.jp」につきましては、広告事業の立ち上がりが遅れており、当中間連結会計期間におきましては収益への貢献には至りませんでした。

以上の結果、その他事業の売上高は2億56百万円(前年同期比5.5%減)、営業損失は3億75百万円(前年同期は61百万円の損失)となりました。

ニコニコ動画について

「ニコニコ動画」とは？

「ニコニコ動画」とは、投稿動画にコメントを付けることができるサービスです。インターネット上で投稿されている動画を見ながら、コメントを書き込むと、動画の画面に重なって次々と文字が表示され、流れていくというイメージです。

本サービスは、当社と当社子会社である株式会社ニワンゴが共同で本年3月6日より動画投稿サイト「SMILEVIDEO」(スマイルビデオ)と同時に、「ニコニコ動画(Y)」としてサービスを開始しました。

オープン時よりサーバ負荷を回避して安定的なサービス提供を行うため、利用可能者数を制限している状況ですが、会員数は急増しており、5月16日には登録会員数が100万人を突破しました。その後も1日あたり1万人以上の増加ペースを維持しております。

「ニコニコ動画(Y)」は6月15日よりバージョンアップし、「ニコニコ動画(RC)」としてサービスを開始する予定です。

「ニコニコ動画」の特徴

- 動画の特定の場所につけたコメントは、その場面が再生されるたびに表示されます。
- 動画の同じ場面に対して、複数のユーザが別の機会につけたコメントが再生時に同時に表示されます。実際に一緒に見ているわけではないのに、同じ場面を多くのユーザで一緒に見て楽しんでいるような感覚になります。

楽しみ方の例 ▶ ・音楽のサビの部分でコメントを入力すると、合唱しているかのように大量のコメントが画面を流れる。
・面白い場面に対して、ツッコミを入れ合う。

- 流れる動画とコメントを一緒に楽しむことで、ただ文字や映像を見ているだけでは味わえない楽しさを生み出します。

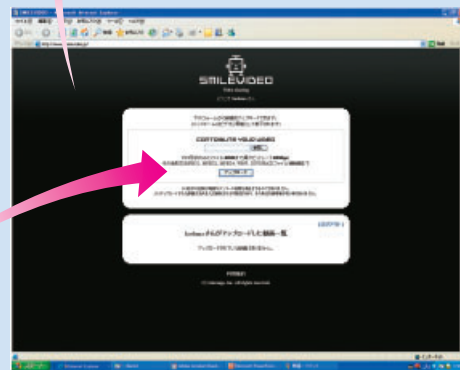
楽しみ方の例 ▶ ・一人で見ているだけでは気付かなかったストーリーの伏線や空耳に、誰かのコメントで気がつく。

▼ニコニコ動画 TOPページ



▲ニコニコ動画 動画再生画面

オリジナル動画を
サイト上から
選択するだけで
投稿完了



▲動画投稿サイト「SMILEVIDEO」(スマイルビデオ)

■ 会員数の増加ペースは最速

「ニコニコ動画」は、3月6日のサービス開始以来、わずか72日で100万人の会員を獲得いたしました。

100万人の会員を集めるまでに要した期間を他社事例と比較してみると、国内最大の会員制コミュニティサイトでは17ヶ月と言われており、「ニコニコ動画」はその約7倍の増加ペースです。また、携帯電話向け大手ゲーム・コミュニティサイトの約6ヶ月に対しては倍以上のペースであり、「ニコニコ動画」は現在、日本のネット史上例のない速さで集客しております。

*A:会員制コミュニティサイト
2004年2月サービス開始 会員数1,000万人(2007年5月現在)
*B:携帯電話向けゲーム・コミュニティサイト
2006年2月サービス開始 会員数500万人(2007年5月現在)

■ 利用度の高さ

会員数の増加だけでなく、利用のされ方にも注目すべき点があります。

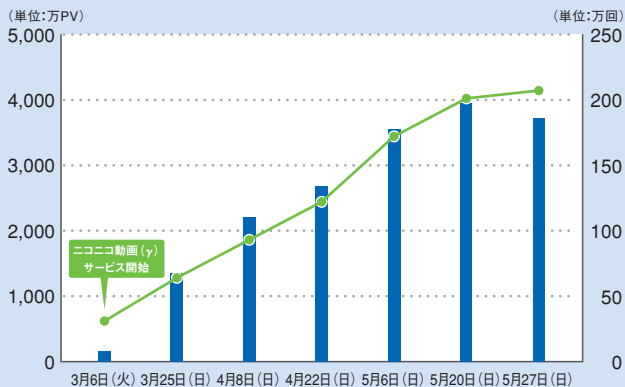
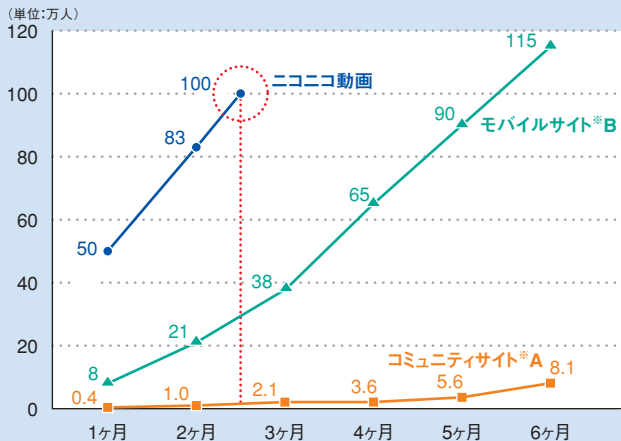
本年5月には1日あたりのページ閲覧数が3,000万ページビュー(以下「PV」)を超えております。月間で9~10億PVという数字は、インターネットサイトの月間視聴数ランキング(ネットレイティングス調べ)において大手ポータルサイトを除けば、コンテンツサービスではトップクラスです。

また、滞在時間を比較すると、国内最大の会員制コミュニティサイトにおける1日の平均滞在時間が約7分であるのに対して、「ニコニコ動画」は1回のサイト訪問あたりの平均滞在時間が約28分と大変長く利用されております。

アクセス数・滞在時間は広告収益をあげるための重要な要素であり、他社と比較してみると、広告媒体としての収益化の可能性が十分に期待できると考えられます。

▶ 動画・コメント削除ポリシー

「ニコニコ動画」はコメント投稿サービスであり、動画は当社グループが運営する「SMILEVIDEO」と他社が運営する動画投稿サイトの動画を引用しております。公序良俗に反するものや著作権侵害等、権利者からの要請があったものは、24時間監視体制のもと削除及びユーザーへの警告または利用停止などの対応をしております。



PV	162万	1,345万	2,188万	2,648万	3,528万	3,950万	3,716万
訪問回数	31万	64万	93万	122万	172万	201万	207万
累計登録ID数	10万	37万	53万	65万	83万	103万	113万

*「ニコニコ動画」は当初10万人限定でサービスを開始し、その後随時利用可能ID数を拡大しております。

中間連結財務諸表（要旨）

■ 中間連結貸借対照表

（単位：千円）

科目	当中間期 (2007年3月31日現在)	前中間期 (2006年3月31日現在)	前期 (2006年9月30日現在)
(資産の部)			
流動資産	18,583,840	21,529,616	20,119,050
現金及び預金	5,271,758	16,166,467	5,438,356
受取手形及び売掛金	4,745,430	4,685,740	5,026,649
有価証券	6,951,877	—	7,948,852
たな卸資産	127,442	82,384	54,698
その他	1,492,152	595,355	1,651,621
貸倒引当金	△4,819	△331	△1,127
固定資産	6,679,143	5,346,552	6,042,618
有形固定資産	1,001,085	721,496	652,478
建物及び構築物	302,652	204,866	176,575
工具器具備品	697,983	385,761	475,454
その他	449	130,868	449
無形固定資産	819,305	517,976	631,985
投資その他の資産	4,858,752	4,107,078	4,758,154
投資有価証券	3,996,469	3,344,918	3,784,256
その他	862,362	762,160	973,898
貸倒引当金	△78	—	—
資産合計	25,262,984	26,876,169	26,161,668

2006年5月1日施行の会社法に伴い「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。これは、貸借対照表上、資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを資産と負債との差額として「純資産の部」に記載するものです。これにより、会社の支払い能力などの財政状態を、より適切に表示することが可能となります。

科目	当中間期 (2007年3月31日現在)	前中間期 (2006年3月31日現在)	前期 (2006年9月30日現在)
(負債の部)			
流動負債	4,781,715	4,771,156	4,361,119
支払手形及び買掛金	1,452,733	1,780,347	1,749,756
短期借入金	200,000	200,000	200,000
1年以内返済予定長期借入金	—	41,703	8,337
1年以内償還予定社債	60,000	60,000	60,000
未払金	1,426,587	1,134,766	1,277,759
賞与引当金	228,244	194,283	223,323
返品調整引当金	45,609	156,737	86,979
その他	1,368,540	1,203,319	754,964
固定負債	4,139	64,411	30,983
社債	—	60,000	30,000
その他	4,139	4,411	983
負債合計	4,785,855	4,835,568	4,392,102
(少数株主持分)			
少数株主持分	—	223,665	—
(資本の部)			
資本金	—	10,026,662	—
資本剰余金	—	11,677,185	—
利益剰余金	—	1,647,126	—
その他有価証券評価差額金	—	14,799	—
為替換算調整勘定	—	1,598	—
自己株式	—	△1,550,437	—
資本合計	—	21,816,935	—
負債、少数株主持分及び資本合計	—	26,876,169	—
(純資産の部)			
株主資本	19,390,770	—	21,396,091
資本金	10,053,162	—	10,033,042
資本剰余金	11,703,685	—	11,683,565
利益剰余金	△815,640	—	1,229,920
自己株式	△1,550,437	—	△1,550,437
評価・換算差額等	520,035	—	11,099
少数株主持分	566,321	—	362,375
純資産合計	20,477,128	—	21,769,565
負債純資産合計	25,262,984	—	26,161,668

■ 中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目	当中間期 (自 2006年10月1日 至 2007年3月31日)	前中間期 (自 2005年10月1日 至 2006年3月31日)	前期 (自 2005年10月1日 至 2006年9月30日)
売上高	11,009,157	10,048,182	19,961,008
売上原価	4,930,333	4,632,123	9,292,916
売上総利益	6,078,824	5,416,058	10,668,092
販売費及び一般管理費	5,945,157	4,680,759	10,699,878
営業利益又は損失	133,666	735,299	△31,785
営業外収益	32,093	11,201	28,267
営業外費用	50,457	118,127	135,435
経常利益又は損失	115,302	628,373	△138,953
特別利益	—	72,827	139,539
特別損失	1,587,863	1,065,501	1,165,182
税金等調整前中間(当期)純損失	△1,472,561	△364,300	△1,164,596
法人税、住民税及び事業税	23,347	222,605	169,243
法人税等調整額	△447	△74,618	△510,249
少数株主利益	158,083	33,443	139,347
中間(当期)純損失	△1,653,545	△545,731	△962,937

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	当中間期 (自 2006年10月1日 至 2007年3月31日)	前中間期 (自 2005年10月1日 至 2006年3月31日)	前期 (自 2005年10月1日 至 2006年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,253,739	2,112,660	171,055
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,071,477	△1,995,705	△4,780,237
財務活動によるキャッシュ・フロー	△354,620	7,748,008	7,692,846
現金及び現金同等物に係る換算差額	△95	△94	846
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△172,454	7,864,869	3,084,511
現金及び現金同等物の期首残高	11,386,110	8,301,599	8,301,599
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	8,881	—	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	11,222,537	16,166,467	11,386,110

「連結剰余金計算書」「利益処分計算書」が廃止され、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは、貸借対照表の純資産の部の中で、主として株主の皆様へ帰属する株主資本について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

■ 中間連結株主資本等変動計算書 (自 2006年10月1日 至 2007年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2006年9月30日残高	10,033,042	11,683,565	1,229,920	△1,550,437	21,396,091	9,578	1,520	11,099	362,375	21,769,565
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行	20,120	20,120			40,240					40,240
剰余金の配当			△392,014		△392,014					△392,014
中間純損失			△1,653,545		△1,653,545					△1,653,545
新規連結による剰余金減少額				△1	△1					△1
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						508,940	△3	508,936	203,946	712,883
中間連結会計期間中の変動額合計	20,120	20,120	△2,045,560	—	△2,005,320	508,940	△3	508,936	203,946	△1,292,437
2007年3月31日残高	10,053,162	11,703,685	△815,640	△1,550,437	19,390,770	518,519	1,516	520,035	566,321	20,477,128

中間単体財務諸表 (要旨)

■ 中間単体貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間期 (2007年3月31日現在)	前中間期 (2006年3月31日現在)	前期 (2006年9月30日現在)
(資産の部)			
流動資産	15,792,907	19,970,289	18,583,385
固定資産	8,574,416	7,160,275	7,774,121
資産合計	24,367,324	27,130,565	26,357,506
(負債の部)			
流動負債	3,071,784	3,415,556	3,342,495
負債合計	3,071,784	3,415,556	3,342,495
(資本の部)			
資本金	—	10,026,662	—
資本剰余金	—	11,677,185	—
利益剰余金	—	3,547,500	—
その他有価証券評価差額金	—	14,096	—
自己株式	—	△1,550,437	—
資本合計	—	23,715,008	—
負債資本合計	—	27,130,565	—
(純資産の部)			
株主資本	20,777,563	—	23,006,039
資本金	10,053,162	—	10,033,042
資本剰余金	11,703,685	—	11,683,565
利益剰余金	571,152	—	2,839,868
自己株式	△1,550,437	—	△1,550,437
評価・換算差額等	517,976	—	8,971
純資産合計	21,295,540	—	23,015,010
負債純資産合計	24,367,324	—	26,357,506

■ 中間単体損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (自 2006年10月1日 至 2007年3月31日)	前中間期 (自 2005年10月1日 至 2006年3月31日)	前期 (自 2005年10月1日 至 2006年9月30日)
売上高	7,776,210	8,354,046	16,584,175
売上原価	4,036,179	4,064,155	8,306,904
売上総利益	3,740,031	4,289,891	8,277,271
販売費及び一般管理費	4,099,258	3,612,087	8,572,421
営業利益又は損失	△359,226	677,803	△295,150
営業外収益	36,744	13,182	31,425
営業外費用	14,625	61,017	77,273
経常利益又は損失	△337,107	629,968	△340,998
特別利益	—	—	4,500
特別損失	1,546,824	30,583	164,956
税引前中間(当期)純利益又は純損失	△1,883,932	599,385	△501,454
法人税・住民税及び事業税	2,570	218,967	157,367
法人税等調整額	△9,801	23,811	△307,796
中間(当期)純利益又は純損失	△1,876,701	356,607	△351,025
前期繰越利益	—	3,174,989	—
中間(当期)未処分利益	—	3,531,597	—

期中における剰余金の変動は、新設された「株主資本等変動計算書」で説明されるため、「未処分利益」の計算区分が廃止されました。

■ 中間単体株主資本等変動計算書

(自 2006年10月1日 至 2007年3月31日)

(単位:千円)

	株式資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金							
		資本 準備金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計					
2006年9月30日残高	10,033,042	11,683,565	11,683,565	15,903	2,823,964	2,839,868	△1,550,437	23,006,039	8,971	23,015,010	
中間会計期間中の変動額											
新株の発行	20,120	20,120	20,120					40,240		40,240	
剰余金の配当					△392,014	△392,014		△392,014		△392,014	
中間純損失					△1,876,701	△1,876,701		△1,876,701		△1,876,701	
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)									509,005	509,005	
中間会計期間中の変動額合計	20,120	20,120	20,120	—	△2,268,715	△2,268,715	—	△2,228,475	509,005	△1,719,470	
2007年3月31日残高	10,053,162	11,703,685	11,703,685	15,903	555,249	571,152	△1,550,437	20,777,563	517,976	21,295,540	

株式の状況／会社概要

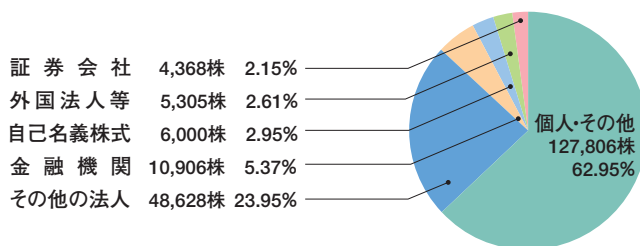
■株式の状況 (2007年3月31日現在)

発行可能株式総数	528,000株
発行済株式総数	203,013株
株主数	12,652名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社	40,900	20.14
川上 量生	37,895	18.66
森 栄樹	20,200	9.95
自社(自己株口)	6,000	2.95
太田 豊紀	4,750	2.33
有限会社パーセント	3,815	1.87
日本証券金融株式会社	3,749	1.84
小林 宏	1,780	0.87
メロンバンクエービーエヌアムロ グローバルカストディエヌビイ	1,775	0.87
ドイツ証券株式会社	1,689	0.83

所有者別株式数比率



■会社概要 (2007年3月31日現在)

設立年月日	1997年8月6日																						
本社所在地	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル TEL.03-3664-5477 FAX.03-3664-5478																						
資本金	100億5,316万円																						
従業員数	単体 315名 連結 481名																						
事業内容	次世代ネットワークエンタテインメントを対象としたコンテンツ及びシステムの企画、開発、運用、サポート、コンサルティング																						
役員	<table> <tr> <td>代表取締役会長</td> <td>川上 量生</td> </tr> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>小林 宏</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>太田 豊紀</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>森 栄樹</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>松本 康一郎</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>麻生 巖</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>荒木 隆司</td> </tr> <tr> <td>監査役(常勤)</td> <td>小池 哲</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>佐藤 辰男</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>鈴木 祐一</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>永野 明</td> </tr> </table>	代表取締役会長	川上 量生	代表取締役社長	小林 宏	取締役副社長	太田 豊紀	取締役	森 栄樹	取締役	松本 康一郎	取締役	麻生 巖	取締役	荒木 隆司	監査役(常勤)	小池 哲	監査役	佐藤 辰男	監査役	鈴木 祐一	監査役	永野 明
代表取締役会長	川上 量生																						
代表取締役社長	小林 宏																						
取締役副社長	太田 豊紀																						
取締役	森 栄樹																						
取締役	松本 康一郎																						
取締役	麻生 巖																						
取締役	荒木 隆司																						
監査役(常勤)	小池 哲																						
監査役	佐藤 辰男																						
監査役	鈴木 祐一																						
監査役	永野 明																						
子会社	株式会社ドワンゴ・ミュージックパブリッシング 株式会社ドワンゴプランニングアンドディベロップメント 株式会社ドワンゴ・エージェンシー・エンタテインメント 株式会社ニワンゴ 株式会社スカイスクレイパー 株式会社モバイルコンテンツ 株式会社ゲームズアリーナ 株式会社チュンソフト 株式会社スパイク 多玩國股份有限公司(台湾 台北市)																						
関連会社	株式会社AG-ONE 株式会社魔法のいらんど																						

株主メモ

事業年度 10月1日～翌年9月30日
定時株主総会 毎年12月
期末配当基準日 9月30日
その他必要がある時は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
公告方法 当社のホームページに掲載します。
URL <http://info.dwango.co.jp/ir/>
なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない時は、日本経済新聞に掲載して行うものとします。
証券コード 3715
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL：0120-232-711
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所 東京証券取引所



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル

TEL：03-3664-5477 FAX：03-3664-5478

E-mail：ir@dwango.co.jp

URL：<http://info.dwango.co.jp/>

■IR情報ホームページのご案内

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。

<http://info.dwango.co.jp/ir/>